

# 平成 18 年度試験研究成果書

区分	指導	題名	ハナアザミウマ類の土着天敵の発消長に影響を与える数種の殺虫剤		
[要約] ハナアザミウマ類の土着天敵 3 種（ヒメハナカメムシ類、カブリダニ類、クダアザミウマ類）に対して、数種の殺虫剤は影響が少ないことが判明した。					
キーワード	ハナアザミウマ	土着天敵	殺虫剤	病害虫部 病理昆虫研究室	

## 1. 背景とねらい

害虫の多発時には適宜殺虫剤を使用して密度抑制を図るが、環境に配慮した防除の実践や害虫のリサージェンス防止のためには、防除対象害虫のみを防除し、天敵には影響が少ない殺虫剤を使用することが望ましい。しかし、殺虫剤の天敵に対する影響が記載されている「バイオコントロール」には、未記載の殺虫剤も多い。

そこで、ハナアザミウマ類に対して使用する主要殺虫剤について、ハナアザミウマ類の土着天敵 3 種を試験材料として、その影響を調査した。

## 2. 成果の内容

(1) ハナアザミウマ類の土着天敵に与える数種薬剤の影響

農薬名(商品名)	ヒメハナカメムシ類	カブリダニ類	クダアザミウマ類
アセタミプリド剤(モスピラン)	×		×
スピノサド剤(スピノエース)	×	×	
トルフェンピラド剤(ハチハチ)	×	×	
ピリダリル剤(プレオ)			?
ペルメトリン剤(アディオオン)	×	×	×

凡例 : 影響がほとんどない × : 影響がある ? : 不明

## 3. 成果活用上の留意事項

- (1) 供試作物は施設ピーマンで、各農薬は防除指針採用濃度で散布した。
- (2) ハナアザミウマ類とは、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマを指す。
- (3) 各種農薬の天敵に影響を及ぼす判定方法は「バイオコントロール」と異なり、薬剤散布後に天敵(幼虫・成虫)が確認された場合は影響がないと判断した。
- (4) ピリダリル剤は、きゅうり、ピーマン等の果菜類で作物登録があるが、適用害虫は本県で未発生のオオタバコガまたはミナミキイロアザミウマである。  
現在、タバコガ、ミカンキイロアザミウマ、アブラムシに対する効果データを集積中で、順次適用拡大を図る予定である。

## 4. 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等 県内全域の果菜類生産者
- (2) 期待する活用効果 化学農薬低減害虫管理技術の拡大

## 5. 当該事項に係る試験研究課題

(H16-26) 施設ピーマンにおける病害虫総合防除技術の実証(平成 16 ~ 18 年、予算: 国庫助成業)

## 6. 参考資料・文献

- (1) 平成 13 年度研究成果「施設ピーマンにおけるヒメハナカメムシの発消長」(研-8)
- (2) バイオコントロール 2006 Vol.10 No2 日本バイオリジカルコントロール協議会編
- (3) 生物農薬+フェロモンガイドブック 2006: 日本植物防疫協会編

## 7. 試験成績の概要（具体的データ）

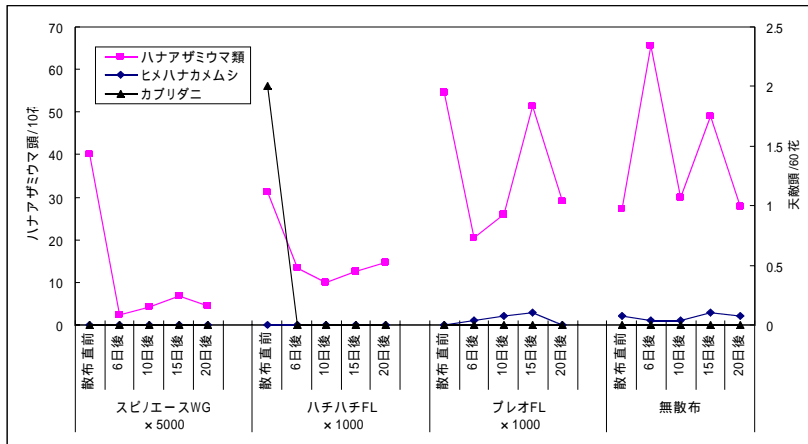


図1 ハナアザミウマ類防除剤散布後の天敵発生消長(2004)

### 摘要

スピノエースとハチハチ散布区ではヒメハナカメムシ類の発生は認められなかったが、プレオ散布区と無散布区では、継続的にヒメハナカメムシ類が見られた。

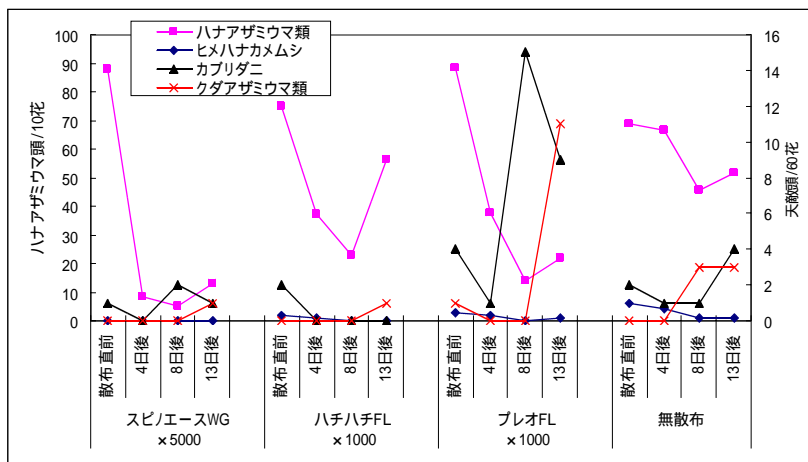


図2 ハナアザミウマ類防除剤散布後の天敵発生消長(2005)

### 摘要

スピノエースとハチハチ散布区ではヒメハナカメムシ類やカブリダニ類が散布後にほとんど確認できなかった。プレオ散布区と無散布区は、少ないながらもヒメハナカメムシ類が見られ特にカブリダニ類に対して影響が少ないと考えられた。

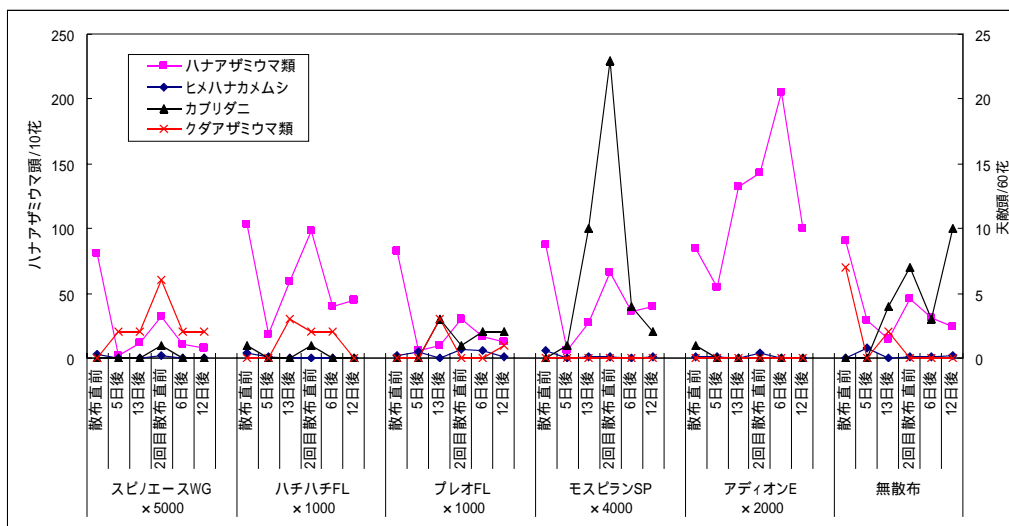


図3 ハナアザミウマ類防除剤散布後の天敵発生消長(2006)

### 摘要

スピノエースとハチハチ散布は、クダアザミウマ類に影響が少ない。プレオ散布区は各種天敵が混在しているので影響が少ないと考えられた。モスピランはカブリダニ類以外の天敵がほとんど見られない。アディオンはハナアザミウマ類のリサーチが見られ、各種天敵はほとんど不在である。

**調査方法：**所内の天敵無放飼ビーマンハウスにおいて、各種薬剤を散布（2004年は8月18日、2005年は8月16日、2006年は8月8日と8月28日）した後、20花×2～3反復で花を採取して、ハナアザミウマ類成虫・幼虫の総寄生数と、天敵（ヒメハナカメムシ類成虫・幼虫、カブリダニ類、シナクダアザミウマ成・幼虫）数を調査した。

**凡例：**ハナアザミウマ類＝ミカンキイロアザミウマ成虫・幼虫＋ヒラズハナアザミウマ成虫・幼虫、ヒメハナカメムシ＝ヒメハナカメムシ成虫・幼虫、クダアザミウマ類＝クダアザミウマ類成虫・幼虫